４年　　位のものさし①　　なまえ（　　）

									万				×			
							＋	－	千	百	＋	－	千	百	＋	－

位のものさし

	兆				億				万				×			
	千	百	＋	－	千	百	＋	－	千	百	＋	－	千	百	＋	－

数の単位（１から上）②

十　じゅう	蛇足ながら、公文書にはまちがいを起こさないように拾と書く。
百　ひゃく	陌と書くのは拾と同じ。
千　せん	阡と書くのも拾と同じ。
万　まん	千の十倍である
億　おく	万の万倍であること。
兆　ちょう	億の万倍をさす。
京　けい	このあたりから、だんだん分からなくなる。 普通の辞書をひいても、高い丘、大きい、さかん、みやこ、などしか分からないが、[大平御覧]によれば、兆の一万倍に当たる数字だから10^{15}
垓　がい	京の一万倍、すなわち10^{20}。[算法統宗]がつくられた時代からの数だそうだから、起こりは日本の建国近くのころになるのではないだろうか。昔の人は、子孫のためにこんな大きな数を工夫してくれた。ありがたいものである。
柿　し	垓の万倍、すなわち10^{24}。
穣　じょう	壌とも書き、柿の万倍、10^{28}で一の次に０が二十八くっつく
溝　こう	壌の万倍だから10^{32}になる。[数術記遺]に、黄王が億、兆、京、垓、柿、穣、溝、澗、正、載の十等の数を定めたというから、日本の建国より古い時代になるらしい。
澗　かん	溝よりは大きいし、つきることがないというわけか。溝の万倍にあたるというから10^{36}。
正　せい	ただしいこと。それが数字にどうつながるのかは分からないが、 澗の万倍で10^{40}。
載　さい	のること、のせること、これも数字にどう関係があるのか分からないが、 正の万倍で10^{44}。
極　きょく	載の万倍で10^{48}。きわまりだから、ここでおしまいにしようという考えだったのだろうが、それではすまなかった。
恒河沙 ごうがしゃ	仏典、王維の六師能禅師碑、に出てくる言葉で、恒河はガンジス河をさし、沙は砂のこと。つまりガンジス河の砂のように、無数無限であることを意味している。極の万万倍というから10^{56}。
阿僧ぎ　あそうぎ	数えることができないほどの大きな数を意味しているが、恒河沙の万万倍ということで10^{64}とした。
那由他　なゆた	非常に大きな数。阿僧ぎの万万倍というから10^{72}。
不可思議　ふかしぎ	ここまでくれば、もう不可思議とさじを投げたらしい。10^{80}
無量大数 むりょうたいすう	「はかりしれないこと」とあり、これでようやくおしまいというわけ。 不可思議の万万倍にあたるということで、10^{88}。